



ふくしだより



福祉写真コンクール 最優秀賞『ひっこお帰り!』

手術をし退院して帰ってきた婆ちゃんを元気づけに来たひ孫との2ショット
ほのぼのとして心温かくなったので写しました(撮影:菊池 浩様)

社会福祉法人 住田町社会福祉協議会

岩手県気仙郡住田町世田米字川向96-5
TEL 0192-46-2300 FAX 0192-46-2321

おらほの事業所

- ◆ 居宅介護支援事業所
- ◆ 訪問介護事業所
- ◆ 訪問入浴介護事業所
- ◆ アンルス通所介護事業所
- ◆ デイサービスセンターとだて
- ◆ グループホームかっこう

- | | |
|--------------|------------------|
| 世田米字川向 96-5 | TEL 0192-46-2300 |
| 世田米字川向 96-5 | TEL 0192-47-3357 |
| 上有住字和田野 12-5 | TEL 0192-48-3300 |
| 上有住字和田野 12-5 | TEL 0192-48-3300 |
| 下有住字十文字 89-2 | TEL 0192-47-3104 |
| 下有住字十文字 89-2 | TEL 0192-47-3103 |

QRコードからホームページとFacebookにアクセスできます!



ホームページ



Facebook

大樹祭

第7回住田町社会福祉大会 第12回住田町老人クラブ大会

第7回住田町社会福祉大会・第12回住田町老人クラブ大会『大樹祭』が11月7日(日)、住田町農林会館において、「つながる・つなげる住田の未来 福祉のまち すみた」をテーマとして、約250名の参加者のもと、開催されました。

残念ながら、コロナ感染防止のため、午後の老人クラブ芸能大会は実施できませんでしたが、コロナ後初開催にして、盛況に終えることができました。

本大会は、町民総参加による地域づくりを推進することを目的とし、社協と老人クラブ連合会が主催し3年ごとに開催されているものです。

各種表彰、福祉作文コンクール最優秀作品の発表、福祉活動支援金の贈呈が行われたほか、記念講演では「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」と題して、この神経内科・脳神経外科クリニック理事長の紺野敏昭先生にお話をいただきました。

その中で、認知症の初期症状は頭に霧がかかったようにスッキリしない感じであること、早期ほど治療効果、進行を抑える効果が高いこと、周囲の接し方のポイント等を教えていただき、何より「認知症になった人が、住み慣れた地域で、活躍でき、人とつながってられ、役に立っていただけるような居場所をつくっておくことが必要」と話され、来場者から「とても良いお話だった。」「来て良かった。」との声がたくさん聞かれました。



【社会福祉功労表彰の様子】



【福祉作文発表の様子】



【紺野敏昭先生】



【記念講演の様子】



住田町社会福祉協議会 会長表彰

* 社会福祉功労 *

★長年にわたり、民生児童委員を務め、地域福祉活動に貢献されました。

松田 栄吉様 千葉 直市様
紺野 栄子様 佐藤 紳一郎様
及川 喜悦様 中澤 正雄様

★長年にわたり、住田町共同募金委員会が行う募金活動に協力し、社会福祉に寄与されました。

有限会社横澤儀商店様 有限会社吉田工務店様
興成商事株式会社様

★長年にわたり、福祉職として本町の社会福祉に尽力されました。

横澤 典子様 野呂 昌代様
佐々木 益枝様 横澤 和子様
高橋 時子様 中里 昭彦様

* 褒 賞 *

中野 眞樹子様 大村 栄子様
吉田 きぬよ様 佐々木 きよの様
高木 チヤ子様 佐藤 みちよ様
金藤 克則様 関根 清隆様
熊谷 サトシ様 藤井 けい子様
泉 正幸様 遠藤 かよ子様



★在宅において、長年にわたり献身的に家族の介護に携わりました。

住田町老人クラブ連合会 会長表彰

* 功 勞 *

〈喜楽会〉 中里 金吾様
〈曙〉 横澤 誠様
佐藤 誠様
横澤 佳子様
泉田 テル子様
横澤 ミツコ様
菅野 アヤ子様
〈山和寿〉 佐藤 清太郎様
〈中沢上〉 菅野 玲子様
吉田 スズ子様
菅野 ヨシ子様
〈悠 悠〉 村上 サチ子様
紺野 康夫様
〈東 峰〉 佐々木 光男様
佐々木 勇様
故 西山 初太郎様
故 細谷 勝男様

〈川 口〉 吉田 信一様
紺野 良春様
〈中 井〉 黒澤 勲様
〈火の土〉 千葉 久様
故 高木 一二三様
鈴木 正巳様
〈外 館〉 吉田 勝祐様
〈両 向〉 柏崎 遵様
高橋 勲様
〈恵 山〉 河村 益男様
〈天 嶽〉 紺野 一夫様
熊谷 隆三郎様
〈五 葉〉 紺野 政夫様

* 感 謝 *

〈中沢上〉
松田 ミツヲ様
松田 清男様
〈東 峰〉
菊池 満盛様
〈大股紅葉会〉
三上次子様
菊池 輝子様
〈五 葉〉
紺野 ワカ子様



福祉活動支援金の贈呈



住田ライオンズクラブ様より町内の福祉活動団体に活動支援金を贈呈していただきました。

福祉作文コンクール入選

小学生低学年の部

- 最優秀賞** 藤井 将平 様 (有住小学校)
『ぼくの大すきなおばあちゃん』
- 優秀賞** 長谷川桜羽 様 (世田米小学校)
『だいすきなおかあさん』
- 優秀賞** 上野 暖人 様 (有住小学校)
『おばあちゃんといろんなことをしたよ』

小学校中学年の部

- 最優秀賞** 紺野 裕聖 様 (世田米小学校)
『ぼくが学んだこと』
- 最優秀賞** 小山 陽向 様 (有住小学校)
『人にやさしいまちをめざして』
- 優秀賞** 佐藤 華音 様 (世田米小学校)
『わたしのお手伝い』
- 優秀賞** 村上 結真 様 (有住小学校)
『きれいな花になってください』

小学校高学年の部

- 最優秀賞** 千葉 智隼 様 (有住小学校)
『みんなが過ごしやすい町へ』
- 優秀賞** 村上 七菜 様 (有住小学校)
『私のおばあちゃん』

中学校の部

- 最優秀賞** 菊池 真由 様 (世田米中学校)
『この世界で共に生きる』
- 優秀賞** 遠藤 優依 様 (世田米中学校)
『祖父と生きる』
- 優秀賞** 水野 悠翔 様 (有住中学校)
『認知症はこわくない』
- 優秀賞** 吉田 春香 様 (世田米中学校)
『母の仕事の手伝いを通じて』
- 優秀賞** 小松平啓仁 様 (有住中学校)
『やさしいところ』

高等学校の部

- 最優秀賞** 佐々木愛花 様 (住田高等学校)
『ボランティアの活動を経て』
- 優秀賞** 鎌田 祥輝 様 (住田高等学校)
『すみたおたすけ隊のボランティア』
- 優秀賞** 佐々木若菜 様 (住田高等学校)
『ボランティアに参加して学んだこと』
- 優秀賞** 細田 梨瑚 様 (住田高等学校)
『三年間のボランティア活動』

福祉写真コンクール入選



優秀賞 野呂ゆき 様
『幸せな時間』

すみたテレビで放送される「北国の春体操」に合わせておじいちゃんと孫が息ぴったりで体操している場面です。



優秀賞 すみた荘 様
『連携プレー』

すみた荘
運動会より。
運動会白熱中!!



優秀賞 泉田和男 様
『上手だよ。
ひいばあちゃん』

ひ孫と一緒に
手遊びしている様子
がかわいいです。



福祉作文コンクール 最優秀作品紹介

小学校
低学年の部

『ぼくの大すきなおばあちゃん』

有住小学校 1年 藤井将平



ぼくのおばあちゃんは、こしがまがっていて、ときどき、「いたいから、手をかしてくれる？」と言います。ぼくは、「うん分かったよ。」と言って、手をかします。

おばあちゃんは、そんな時、やさしい声で、「ありがとう。ありがとう。」と言ってくれます。ぼくは、うれしくて、うれしくて、とっもしあわせな気持ちになります。もっともっと、いろんなことをしてあげたいと思います。

「年をとると、みんな、だんだんこんなふうになるんだよ。」と、おばあちゃんは言います。そういえば、ほかのおばあちゃんもこしがまがっています。

ぼくのおばあちゃんは、八十八さいです。となりの家に、一人ですんでいます。同じ家じゃないのに、ごはんをもってきてくれたり、夜でも、電話がくると、教えに来てくれたりします。おばあちゃんは、まい日、「めんこ、めんこ。」と言って、やさしく、ぼくの頭をなでてくれます。ぼくは、こんなふうに頭をなでてもらうのが大好きです。

前に、先生が、ロードレース大会のことで話した時におばあちゃんが、「先生、おら、しょっこに『こんな、こしがまったばあちゃん見に行ったら、はずかしくねえか。』って言ったんだ。そしたら、しょっこ、『はずかしくないよ。ばあちゃん見に来て。』って言ったのよ。はあ、うれしかったよ。」と言っていたと教えてくれました。

ぼくは、こしがまがった、やさしいおばあちゃんが大好きです。もっとこしがまがったら、おんぶしてたすけてあげたいです。

小学校
中学年の部

『ぼくが学んだこと』

世田米小学校 4年 紺野裕聖



ぼくには、九十三歳になるひいばあちゃんがあります。はなれて住んでいるのですが、よく遊びに行きます。とても元気で働きもので、庭の草取りをいつもしています。ぼくもたまに草取りのお手伝いをします。手伝ったときは、「助かるよ。ありがとう。」とうれしそうです。だから、地いきそうぞう学で、お年寄りについて学習することになって、ひっこばあちゃんの役に立つといいなと思いました。

最初に、お年寄りになると今の自分とどうちがうのか知るためにキャップハンディ体けんをしました。手や足に重りをつけ、ひざとひじに、サポーターをまくと、手足をあげたり曲げたりすることが大変になりました。さらに、指にテープをまき、ゴーグルをつけると、お年寄りと同じようたいになるそうです。見えるはんいがせまくなり、色も黄色っぽくなりました。学校の中を歩きましたが、ころびそうになってしまうので、つえなしでは歩けませんでした。

次に社会福祉協議会の菊池さんから、住田のお年寄りの日常や、かいごについてお話を聞きました。家の中には、カーペットの段差や電気のコードなどで、大けがをするお年寄りが多いことを知って、びっくりしました。去年こしをいためたことがあって、しばらくねたきりになったことを思い出し、ぼくたちには何でもない物が、お年寄りには、大けがになる危険があることに気付くことができました。

学習を進めていくうちに、住田のお年寄りのみなさんのために、何かできることはないかと考え、ぼくたちは、老人かいご施設のすみた荘にメッセージ動画を送ることにしました。ひっこばあちゃんもデイサービスを利用しているので、何か楽しめることにしたいと考えました。タブレットで、お年寄りが好きなものをいろいろ調べました。ぼくたちのグループは、昔はやった歌のクイズとありがとうで作ったおもちゃをプレゼントすることにしました。おもちゃのビー玉ゲームが思ったよりおもしろいけど、ていねいに心を込めて作りました。また、お年寄りが聞きやすいようにはっきりと話すことを心がけて、クイズの練習をしました。出来上がった動画を見たときは、少しはおもしろかったけど満足できました。すみた荘から、動画のお礼のメッセージが届いたときは、ぼくも学級のみななもとてもうれしくなりました。「ありがとう。これからはべんきょうがんばってね。」というメッセージを読んだときは、ぼくのほうが元気をもらったと思いました。

この学習を通して、住田町がお年寄りやぼくたちがもっとなかよくくらしていける町になるといいなと思いました。これからはぼくができることを考えていきたいです。

小学校
中学年の部

『人にやさしいまちをめざして』

お やま ひ なた
有住小学校 4年 小 山 陽 向



ぼくは、四年生の一学期に、地域そう造学で「ひとにやさしいまち」の単元の学習をしました。住田町の社会福祉協議会の菊池和子さんをまねいて、高れい者の生活についてお話をさせていただきました。

その菊池さんのお話を聞いて心にのこったことは、「ふくし」という言葉に意味があったことです。菊池さんは、「『ふつうのくらしの幸せ』です。」と教えてくださいました。ふつうに生活できることがどんなに幸せなことかということなのでしょう。また、高れい者にとっては、毎日の生活の中には、危険なことがいっぱいあることも学習しました。すべりやすいゆかとか、つまづきやすいこたつ回りなどです。ぼくは、おばあちゃんたちが歩く場所には物を散らかしておかないようにしないといけななと思いました。そして高れい者の人たちには優しく接するというこも心に残りました。

身体の不自由な人たちが使う車椅子は、ぼくが思っているよりも重かったし、使うためのルールもいっぱいあったので、車椅子を押すのはおもしろくないなと思いました。乗っている人がこわがらないように気をつけて、ゆっくり安全に押してあげることが大事だと分かりました。

高れい者の人たちの生活は、自分が思っていたよりも大変だと分かったし、優しい声かけや親切にすることが大切だと分かりました。

ぼくの家にもおばあちゃん、おじいちゃんがいるので、ぼくは、高れい者の人たちを大事にすることを、今までよりも強く思うようになりました。身体の不自由な人たちも、いろいろ心配なことが多いこも知りました。これからぼくが住んでいる住田町が、もっと「人にやさしいまち」になるように、ぼくが何かお手伝いできることがあったらしていきたいです。

小学校
高学年の部

『みんなが過ごしやすい町へ』

ち ば ち はや
有住小学校 5年 千 葉 智 隼



国語の学習で、「みんなが過ごしやすい町へ」という学習をしました。

ぼくはみんなが過ごしやすい学校や町にするために、どんな工夫があるか調べました。

学校には、スロープ、エレベーター、多目的トイレ、手すり、AEDなどがありました。

スロープは、玄関やしょうこう口、体育館やホールにありました。これは、車いすや松葉づえを使う人、お年寄りの人や目が見えない人にとって便利なものです。また、エレベーターも同じで、歩くのが困難な人にとって、とても便利なものです。それから、手すりも歩くのが大変なときに役立ちます。

ぼくは、四年生のとき、キャップハンディ体験をしました。目かくしをして歩いたとき、どこに何があるか分からなくてこわいと思ったし、大変だと思いました。だから、このような物があると楽だと思えます。

先生から「昔は、学校にスロープやエレベーターはなかったんだよ。」と教わりました。だから、昔に比べると今は、みんなが過ごしやすい学校に変わっているんだなと思いました。

また、AEDもあり、急に倒れたときも、すぐに助けることができて役に立つ道具だなと思いました。

このように、改めて調べてみると、学校には、みんなが過ごしやすいような工夫がたくさんあるなと思いました。

それから、やっぱりみんなとなかよくすごすことが大事だと思います。そのためには、自分からあいさつをしたり、ふわふわ言葉といって心があたたかくなる言葉を積極的に使って話したりすることが大事だと思います。

相手のことを考えて思いやる言葉で話をすれば、心も元気になり、明るく過ごすことができると思います。ぼくは、そのことに進んで取り組みたいと思います。

また、ぼくたちは、毎年、伝しよう芸能に取り組んでいます。おどりは、五葉けんばい、大黒まい、外館じんくです。ぼくは、五葉けんばいをおどっています。運動会には、毎年伝しよう芸能をおどっています。おどりは、地域の人を楽しませるので、ずっとおどっていきたいと思います。

しかし、今年もコロナで、運動会には地域の人々が来られませんでした。だから、早くコロナがおさまってほしいです。そして、また地域の人たちに来ていただいて、地域の人たちにおどりを見せたいです。そして、楽しませたいです。

ぼくたちができることは小さなことだけど、みんな明るく元気に過ごせるように、できることに取り組んでいきたいと思います。そして、みんなが過ごしやすい町を作っていきたいと思います。

中学校の部

『この世界で共に生きる』

世田米中学校 1年 きく 菊 ち 池 ま 真 ゆ 由



私の弟は、頭の中で理解をしたり、二つの事を同時進行することがあまりできません。このように、障害を持って生まれてくる人や、生まれた後に障害を持った人は、この世の中に少なからずいます。なので私は、この世界で障害を持った人々が、どのような生活を送っているのか、考えてみようと思います。

私と弟は三才違いで、弟は生まれて一年くらいたった時に、心臓の手術を受けました。そして、弟が二、三才の時に、私は違和感を覚えるようになりました。立って歩く時期が遅かったり、同じことを何回も、くり返し聞いてくるようになりました。弟が小学生に上がると、学校が弟だけの学級をつくってくれて、弟と先生の一对一で勉強することができました。みんなより遅れをとりながらも、勉強をしたり、おもちゃで遊んだりして、ゆっくり、自分のペースで生活しています。

一度だけ、弟も通っていた、障害がある子達がいる保育所のような所へ行ったことがあります。ここでは、目の見えない子、しゃべることができない子、大声を出して暴れてしまう子など、障害を持った子がたくさんいました。このような子達は、どんな風に大人になっていくのかを考えた時、私は、機械の力だけでは、障害をもった人達と接することは、ほぼできない事だと思いました。今、世界は、人の仕事を機械で行っていることは、珍しくありません。障害をもった人達と接することは、人にし

かできない事だと考えました。感情のない機械と違って、感情のある人の方が、障害をもった人達も安心して、生活していけるなと思いました。

障害を持った人々が、どのような生活を送っているか考えてみて、人とのふれ合いが、障害を持った人々の支えになっているんだと実感しました。なので、私は、いろいろな人とふれ合って、自分がその人達の支えになってあげたいと思いました。

高等学校の部

『ボランティアの活動を経て』

住田高等学校 3年 ^{さ さ き} 佐々木 ^{あい か} 愛花



七月二十二日にすみたおたすけ隊というボランティアに参加しました。夏には窓拭きや蜘蛛の巣取り、窓の棧の掃除をし、冬には雪かきもします。約二時間半という時間の中での掃除ですが、とても充実した時間を過ごせると思っています。このすみたおたすけ隊には中学一年生の時から参加していて、私にとってとてもなじみ深い活動になっています。

私が中学生の時、先生から進路のためになるからと勧められたことがきっかけで参加しました。進路のためだからという理由であまり気乗りしないまま参加したのが初めてのすみたおたすけ隊ボランティアでした。活動を始める前までは、私と同じ理由で来た同級生と駄弁っていました。しかし、実際に参加してみると、誰かのためと思い一生懸命活動しているうちに、地域のお年寄りの方と貴重なお話をしたり、ボランティアのメンバーで和気あいあいと作業をしたりと、活動の中でしか体験することのできない楽しさや、やりがいといったものを体験することが出来ました。それが今でもボランティア活動に参加することになった大きな理由だと思います。初めて参加したボランティアで一番印象に残っている言葉があり、今でも活動する前にスタッフの方がおっしゃっている言葉です。それは、「ボランティアはしてあげるのではなく、させて頂いているのだという気持ちです」という言葉です。この言葉を聞いた時、私はしてあげるという考え方がいかに失礼なのだろうかと思いました。確かにボランティアをしてあげているように感じるかもしれませんが、活動する場所にお邪魔し、生活空間の中に短時間でも割り込むのだから、上から物事をいうような活動ではないのだと感じました。このすみたおたすけ隊という活動に参加した事でボランティアとは、してあげるものだという考えを改める機会を得ました。そして、その時からできるだけ多くすみたおたすけ隊に参加したいと思うようになりました。一年に夏と冬合わせて二回ある活動の内、必ず一回は参加するように心がけていました。私は毎年ボランティアに参加する中で、普段は話す機会もない方と会話することができ、こんな活動に参加するのも自分にとってプラスになることも知りました。今年も夏のボランティア活動に参加しました。窓拭きや棧の掃除、蜘蛛の巣取りを分担して取り組みました。蜂の巣があり危険な部分もありましたが、隅々までそうじをしつつ、活動メンバーのリーダーとして活動に取り組みました。活動させて頂いた方は一人暮らしをしていました。が、目と耳が不自由で庭の草取りを手探りでしている方でした。歩くだけでも大変なのに、一人でこなしている事にとっても驚きました。生きるために必要だとしても大変なことで、出来るようになるまで沢山の困難があっただろうなと思いました。今回の活動では人の強さと支え合う大切さを改めて感じました。

今回のすみたおたすけ隊の活動を通して、ボランティアは何かをするだけでなく、その中で感じたことが直接自分自身の経験として積むことが出来ると知りました。私は、これまでの活動を通して学んだことを、これからの生活でも大切にしていきたいです。

生活のお困りごとについてのご相談は



社会福祉法人 住田町社会福祉協議会

【開設時間】 8:30 ~ 17:00

【開設場所】 住田町保健福祉センター (住田町世田米字川向 96-5)

岩手県社会福祉大会で受賞されました

令和3年11月2日(火)に岩手県民会館にて執り行われました、『令和3年度第74回岩手県社会福祉大会』において、下記の皆様が表彰されました。心よりお祝い申し上げます。

● **岩手県知事感謝状（在宅介護者）** ……多年にわたり在宅要援護者の介護にあたっている方
 轟 ミツ子 様

● **岩手県社会福祉大会長表彰（社会福祉事業功労者）**
 ……多年にわたり社会福祉の増進に寄与し、社会福祉事業の推進に功績が顕著な方
 高橋 竜哉 様 菅野 孝男 様

● **岩手県社会福祉大会長表彰（永年勤続功労者）** ……多年にわたり社会福祉事業に従事した方
 〈鳴瀬会〉 佐々木純子 様 遠藤 美樹 様 吉田レイ子 様 大和田和美 様
 吉田美奈子 様 紺野貴代子 様 佐々木洋子 様
 〈住田町社協〉 高萩 久之 様 日野美佐子 様 黒澤 康子 様

● **岩手県民生委員児童委員協議会長表彰（永年勤続民生委員・児童委員）**
 ……前年度11月30日において、在任期間が通算7年に達した方
 泉田 健一 様 橋本 富子 様 泉田すみ子 様

生活福祉資金貸付制度のご案内

◆教育支援資金

高等学校、大学（短大、専修学校の専門課程を含む）、高等専門学校の就学費用を貸付するものです。教育支援費（授業料等）と就学支度費（入学金や制服代）の2種類があります。

願書や受験票の写しを添付することで事前申込みが可能です。余裕を持ってお早めにご相談ください。

種 類	貸 付 限 度 額	据置期間	返済期間	貸付利子
教育支援費	高校 月額 35,000円以内	卒業後 6か月以内	20年以内	無利子
	高専 月額 60,000円以内			
	短大 月額 60,000円以内			
	大学 月額 65,000円以内			
就学支度費	500,000円以内 ※利用は入学時のみ			

【ご利用いただける世帯】 一定の所得額以下の世帯で、必要な資金の融通を他から受けることが困難な世帯。（母子父子寡婦福祉資金や日本学生支援機構奨学金の利用が可能の方はそちらの利用が優先されます）その他の要件等については住田町社会福祉協議会へお問い合わせください。

◆生活福祉資金特例貸付の受付期間延長について

新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し、生活費が不足する世帯に対し、生活福祉資金特例貸付を実施しています。本貸付には緊急小口資金、総合支援資金の2種類がありますが、感染症発生による休業等により当面の生活費に関する資金需要に対応するため共に受付期間が延長されました。特例貸付の概要と延長後の受付期間は下記をご覧ください。

① 緊急小口資金特例貸付

一時的な生活費が不足する世帯に、20万円を上限に貸し付けます。（1回かぎり）

② 総合支援資金特例貸付

①の貸付を利用した世帯で、生活状況が改善しない世帯に対して生活の立て直しまでの生活費として、20万円×3ヶ月以内を上限に貸し付けます。

【受付期間】 緊急小口資金特例貸付：令和4年3月末まで

総合支援資金特例貸付（新規申込）：令和4年3月末まで

総合支援資金特例貸付（再貸付申込）：令和3年12月末まで

【生活福祉資金関連のお問い合わせ先】 住田町社会福祉協議会（TEL 46-2300）

すみだの赤ちゃんを応援しています

「すみだの赤ちゃん応援事業」は、子どもが生まれた世帯へ主任児童委員と民生委員が訪問してお祝いをするとともに、地域ぐるみでの子育てを支援する仕組みづくりを行うことを目的として実施しています。

今回ご紹介するのは、世田米地区にお住まいの『浅川奏典』ちゃんです！お兄ちゃんとの仲睦まじいツーショットに癒される一枚。

健やかな成長をお祈りしています。

【応募・お問い合わせ先】

住田町社会福祉協議会 (TEL 46-2300)



あさかわそうすけ

浅川 奏典ちゃんとお兄ちゃん

(令和3年6月生まれ)

『とだてリハ』開所しています

デイサービスセンターとだてでは、介護予防に力を入れるため、パワーリハビリの機械を導入し、理学療法士・作業療法士のリハビリ専門職による運動指導を行っています。

利用対象者は？

①介護保険の認定を受けた方

②介護予防・日常生活支援総合事業の事業対象者として認定を受けた方

リハビリ専門職が一人一人に合った
運動メニューを考え、体づくりを
サポートします！

ご希望の方には
送迎もいたします

詳しくは下記お問い合わせ先へ

利用日 毎週火・金曜日

※食事・入浴はありません

利用時間 9:00 ~ 12:15

お問い合わせ先

デイサービスセンターとだて
(TEL/FAX 47-3104)



24時間テレビ チャリティー募金のご報告

毎年実施していた24時間テレビチャリティー募金活動は、岩手県緊急事態宣言が発令中であったため中止となりましたが、社会福祉協議会へ募金を届けてくださる方々があり、総額55,555円が集まりました。

お寄せいただいた募金は全額「テレビ岩手 24時間テレビチャリティー委員会」に送られ、福祉や環境保護活動、災害復興支援事業に役立てられます。ご協力ありがとうございました。

弁護士相談

※令和3年4月から所得に応じて有料となっています。

有料での弁護士相談を受け付けています。

料金等詳細については、下記へお問い合わせください。

■各相談日先着で2組受け付けます。

相談開始時間は

①17時00分と②18時00分からの2枠です。

■個室にて相談にあたりますので、第三者に相談内容が漏れることはありません。

【お問い合わせ先】住田町社会福祉協議会 (TEL 46-2300)

〈相談予定日〉

令和4年

1月25日(火)・2月22日(火)・3月30日(水)



このふくしだよりは、皆様からお寄せいただいた赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。